

成果の説明書

(氏名) 片岡美喜	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1. 研究成果</p> <p>&lt;論文&gt;</p> <p>・高津英俊,片岡美喜,斎藤潔「北関東地域の大規模酪農法人における雇用管理と従業員教育の現状と課題」高崎経済大学地域政策学会,第 20 巻第 1 号,pp51-60,2017 年 8 月 (査読あり、共著)</p> <p>本論文は、北関東地域における酪農メガファームと呼ばれる大規模酪農家を対象とした調査から、その雇用管理と従業員教育に関して人的資源管理論の観点から考察した共同論文である。現地調査から得られた示唆として、多様な雇用形態や労働シフトが組み込まれている状況がいずれのケースからも確認された。このことは、従業員教育を広く行うことや、従業員間の連携やコミュニケーションを図る機会が困難な状況を示すこととなった。今後の展望として、各部門あるいはシフト単位での従業員教育の機会拡充と、これらの指導に携わることができるミドル層の従業員育成の重要性を提示した。</p> <p>&lt;学会発表&gt;</p> <p>・片岡美喜「農業・農村における社会貢献型事業の経営戦略」),平成 29 年度日本農業経営学会・大会シンポジウム報告者「農業経営研究における経営戦略論の再検討-デザイン思考の有用性について-」,日本農業経営学会(九州大学),2017 年 9 月 13 日。</p> <p>日本農業経営学会大会の大会シンポジウムの報告者として、農業・農村分野における社会貢献型事業について経営戦略論からの考察を行った。農業・農村分野における社会貢献型事業は、慈善事業や CSR 的側面だけではなく、環境や安全問題、社会課題への対応を経営内容や事業に包含することで、農業経営分野における経営戦略の再定義に有効であるとの仮説に基づき、先行研究の考察、事例における分析から今後の経営発展のあり方について提示した。</p> <p>2. 教育活動</p> <p>本ゼミナールは、平成 24 年度から平成 29 年度の群馬県農村整備課事業やま・さと応縁隊事業に採択され、(株)片品村振興公社・旅行部の全面的な協力のもと、同村を中心とした農業・農村振興を目的とした地域調査や観光活動への支援事業を実施してきた。平成 30 年度も採択を受け、3 年生を中心とした教育・研究活動を進めてきた。</p> <p>本年度のゼミ 3 年生は、主に 2 点の活動に注力した。まず、高崎の梅を題材に、梅に関する消費および認知状況調査と、梅を題材にしたイベント内スタンプラリーを行った。Web を通じた梅の消費および認知状況調査からは、日常的な梅消費が乏しく、高崎が梅の生産量が全国 2 位であることを知らない状況が分かった。調査結果を踏まえ、多くの人が集まるイベントを通じて気軽に知ってもらいたいと考えたゼミ生らは、高崎市観光課の協力を得て、毎年 10 月に開催されるダンスイベントであるたかさき雷舞フェスティバル内にてスタンプラリーを実施した。このスタンプラリーの台紙には高崎の梅に関する豆知識を入れ、スタンプも高崎ダルマや梅の品種である「白加賀」を擬人化したゆるキャラを学生がオリジナルで作成し好評を得た。1000 枚以上のスタンプ台紙を配布し、イベント内 3 カ所のダンス会場をまわり終えて特典利用した人は 200 名以上であった。県外からも来訪した参加者からは、「高崎が梅の生産が全国第 2</p>	

位だと知らなかった」「梅のキャラクターが可愛い」などの声が得られ、ゼミ生らが当初意図した目的がおおむね達成できたものと思われる。

もう一つの活動として、5 大学合同ゼミナールのホスト校として片品村内で 2 泊 3 日のスタディツアーを企画・実施している。この合同ゼミは和歌山大学、広島大学、琉球大学、広島修道大学と 9 年以上にわたって継続している取組である。2 度目のホスト校となった平成 30 年度の合同ゼミでは、前回訪問した農家の方や村内で実践する方々への聞き取り調査を中心に、同村で展開するグリーンツーリズムの実践を他大学とともに学ぶ機会となった。村民の皆さんと他大学も含めたワークショップを通じて、村内の今を俯瞰的に把握し、大学や若者がどのように地域に貢献できるのかを考え、今後の活動へ活かせる示唆を得るものだった。

3 年生らは、これらの実践や長野県飯田市への現地調査や、県内での調査を踏まえ、12 月に東京大学で開催された全国エコツーリズム学生シンポジウムや、平成 30 年 2 月に群馬県庁で行われたやま・さと応援隊シンポジウムにて報告を行い、成果を広く公表することに努めた。

以上の取組に加えてゼミ 4 年生も、3 年次に行っていた取組を継続して、片品村の伝統野菜である大白大豆の普及活動を行った。10 月に東京にある群馬県のアンテナショップである「ぐんまちゃんち」にて、大白大豆製品の試食とパネル展示、大白大豆マフィンの製造・販売を行った。その結果、マフィンは完売を果たし、約 150 名の来訪者らに片品村とその伝統野菜を伝える機会になった。

今年度の活動を通して、学生らは農業・農村の現状を知ると同時に、実践活動を行うことでマーケティングやプロモーションの難しさ、やりがいを体感し、それらが地域において何らかの一助になることにやりがいを感じる結果となった。

#### その他の事項

##### <社会活動>

##### 1) 各種委員会

- ・国営土地改良事業計画に係る専門技術者（関東農政局）
- ・群馬県情報公開審議会委員
- ・農林水産政策科学研究委託事業研究課題審査委員、評価委員（農林水産政策研究所）
- ・地産地消コーディネーター（一般社団法人都市農山漁村交流活性化機構）
- ・内閣府総合特別区域の専門家評価に係る委員
- ・「尾瀬の郷片品」むら・ひと・しごと創生本部 有識者会議委員

##### 2) 学会活動

- ・日本農業経営学会 編集委員

##### 3 次年度以降の計画・抱負

次年度以降の抱負として、これまでの研究成果を踏まえ、さらに理論面、実証面を充実させた研究報告、論文執筆を行うことである。加えて、学生による現地調査の指導、地域における実践についても細心の注意を払いながら実施したい。